

## 往復書簡

今回からは、前島昭博氏（山口県 株式会社花の海）と当機構理事長の高木勇樹との往復書簡が始まります。

拝啓 高木 勇樹様

秋冷の候、高木様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。全国に苗を生産・出荷している農場の繁忙期も折り返し地点を過ぎ、現場は落ち着きを取り戻しつつあります。

「農学業えて農業滅びる」そんな言葉にも感化されて歴史ある船方農場グループ（代表 坂本多旦）に飛び込んで、はや十八年が経ちました。当時の私は農学研究者になることを目指して大学の実験室で植物生体計測の研究を続けていました。プラスチックの精密成型を本業とする企業に籍を置き、給与をもらいながら研究を続けていた時期もありましたが、バイテクブームの終焉とともに企業は撤退しました。儲からなければ、自分の好きな研究で実績をだしても続けていくことはできないという現実をしつかりと理解できました。そして、基礎的な研究を続ける中で自分のやっていたことが社会の役に立つのか。自問自答する日々だったのです。

そうだ、自分の原点にもどって農業という産業に可能性を求めてみよう。自分は馬力もあつて手先も器用だ、植物を見る目にも自信がある。何よりも農学をずいぶんと学んできたではないか！そのような状況で「農業基盤のない青年にも農業ができる場を！」という船方総合農場の企業理念は私にピッタリだったのです。

「事業は人なり」という言葉があります。日本農業の将来を決めるのは多様な人材を農業という第一産業に取り込み、育てていく仕組みづくりにあると思います。私の同級生で農業という職業に就いた人はほとんどいません。

私の人生経験から、大学農学部という専門教育と第一産業である農業には乖離を感じています。双方が近づけば、技術立国日本における農業の可能性はもっと明るく広がっていくのではないのでしょうか。若輩者ながら自分の思いをぶつけてみました。このたびはこのような機会を与えて頂き、誠にありがとうございます。

平成二十六年十月吉日

敬具

前島 昭博（まえじま あきひろ）

一九七〇年 愛媛県温泉郡重信町（現 東温市）生まれ  
一九九五年 愛媛大学大学院連合農学研究所博士課程中退  
一九九六年 山口県阿東町（現 山口市阿東）にある船方農場グループ入社  
二〇〇一年 尊農塾にて大規模園芸農場構想発表  
二〇〇三年 株式会社 花の海設立、取締役として参加  
二〇一三年 株式会社 花の海 代表取締役社長就任、現在に至る  
当社は大規模システム園芸農場における苗づくりを通して、川上から農業を支える「5次産業」「農・商連携」。そして、農業の魅力・可能性をたくさんの人へ！をモットーに、川下から農業を支える「第六次産業」「都市・農村交流」の仕組みづくりを目指しています。



上段：(株)花の海 前島社長

下段：ハウス保守・修繕の様子

拝復 前島 昭博 様

東京では十月二八日木枯らし一号が吹き、一気に秋が深まったように感じます。今年は年明けからこれまで随分と天変地異があつた年で、残り二カ月間足らずですが、平穩無事に打過ぎることを祈るばかりです。

「花の海」と聞くと、条件反射的に坂本多且さんの顔を思い浮かべます。ふたりに防波堤に立って、耕作されず荒廃した干拓地の茫漠たる様を見ながら、坂本さんがその再生に懸ける熱い思いとグラントデザインを語られた時のことがつい昨日のように想い出されます。

その社長さんをされている貴兄にこの世の縁を感じます。

事業は人なり、同感です。ただ「人を見抜く力」を事業トップが持つているかが大事だと思います。農業経営体は大きくなつたとは言え、組織的には未熟でカリスマ・ワンマントップが多いのが現実だと思います。決断が早いので当たれば急成長ですが、失敗すれば奈落の底ということになります。

船方農場グループは早くから事業理念を明確にし、その実践のための人材（財）を集める努力とその人材個々の能力をいかに引き出し総合力とするかを組織運営の基本に据えていたからこそ「農業基盤のない青年にも農業が出来る場を」の企業理念が自然に生まれたのではないかと思います。

貴兄も企業を見抜く力を持っていたのです。今地方創生が、女性が輝く社会の実現と並んで国政の目玉となっております。

小生は、多くの農村で基幹的な役割を果たしている農業が、産業として持続する経営を行うことこそが地方創生のひ

とつのかぎを握っていると思つています。ところが農業の産業化、持続する経営というキーワードは御社では当たり前でしようが、霞ヶ関、永田町で市民権を得たのはつい最近のことです。

貴兄の大学と農業についての見解はその通りと思ひますが、このような現状の農業と地方大学農学部が具体的にどのような近づき方をすると良いとお考えでしょうか。次回農業側の問題、制度・施策の問題などと併せお考えをお聞かせ頂ければ有難く存じます。

平成二十六年十一月吉日

敬具

## 高木 勇樹（たかぎ ゆうき）

一九四三年 群馬県生まれ  
一九六六年 東京大学法学部卒業後農林省入省。食品流通局砂糖類課長、大臣官房企画室長などを経て、食糧庁管理部長、畜産局長、大臣官房長、食糧庁長官など歴任。  
一九九八年 農林水産事務次官、二〇〇一年退官  
二〇〇二年 ㈱農林中金総合研究所理事長  
二〇〇三年 農林漁業金融公庫総裁、二〇〇八年同公庫退任  
二〇〇七年 NPO法人日本プロ農業総合支援機構副理事長  
現在、NPO法人日本プロ農業総合支援機構理事長などの立場から、わが国農業・農村の活性化、食の問題の解決に向けた活動に尽力。

